

課題名	41 安定・高品質をめざす茶栽培技術の確立	分類	②
	二・三番茶の若芽摘採が翌年の一番茶に及ぼす影響		
試験研究年次	61～1年(完了)		
I 目的			
二・三番茶の摘採時期の違いが、翌年の一番茶の収量・品質に及ぼす影響を明らかにする。			
II 試験方法			
1 実施場所 所内圃場			
2 土壌条件 洪積世堆積赤黄色土 LiC/HC			
3 試験区構成			
	区	二番茶の摘採時期	三番茶の摘採時期
	A	若芽摘採	若芽摘採
	B	//	適期摘採
	C	適期摘採	若芽摘採
	D	//	適期摘採
注) 若芽摘採: 葉数3枚 出開度40~50%			
適期摘採: 葉数4枚 出開度70~80%			
4 供試品種/樹齢 やぶきた /12年生			
かなやみどり / 7年生			
5 試験規模 やぶきた : 1区 9.0㎡, 3区制			
かなやみどり: 1区 8.1㎡, 2区制			
6 調査項目・方法			
生葉収量 : 可搬型摘採機により摘採した新芽を計量した。			
摘採芽の性状: 20cm枠摘みの新芽を計測した。			
III 主要成果の概要			
1 翌年の一番茶の収量を比較すると、若芽摘採区は適期摘採区と同等か、それ以上の収量があった。			
2 製茶品質を比較すると、かなやみどりではほとんど差はなかったが、やぶきたでは若芽摘採区が適期摘採区より劣った。			
以上の結果より、前年の二・三番茶の若芽摘採は翌年の一番茶の収量にはほとんど影響しないが、品質に悪影響を及ぼすと考えられる。			
したがって、二・三番茶の摘採は、翌年の一番茶への影響を考慮して、極端な若芽摘採は避けなければならない。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 一番茶収量と摘採芽の性状

品種 (年次)	区	生葉収量	新芽数 本/m ²	百芽重 g	新芽長 cm	新葉数 枚	出開度 %
やぶきた (62年)	A	127	1083	50.7	4.9	3.6	86
	B	121	950	46.7	4.4	3.3	86
	C	102	925	43.5	4.2	3.3	82
	D	100(441)	925	41.0	4.1	3.3	86
かなやみ どり (1年)	A	114	1663	42.7	4.9	3.2	86
	B	98	1525	38.8	4.3	3.1	77
	C	102	1663	37.8	4.1	3.1	75
	D	100(540)	1875	46.6	4.8	3.3	87

注) ①生葉収量はD区を100とした指数で示した。
②()は実数、単位はkg/10a。

第2表 一番茶の製茶品質

品種 (年次)	区	外 観		内 質			合 計
		形状	色沢	香気	水色	滋味	
やぶきた (62年)	A	15.0	14.0	14.0	14.5	13.5	71.0
	B	13.5	14.5	13.5	13.8	12.5	67.8
	C	13.0	14.5	15.0	15.5	14.5	72.5
	D	14.0	14.5	16.0	15.3	15.0	74.8
かなやみ どり (1年)	A	17.8	18.5	18.8	19.0	18.8	92.9
	B	18.5	18.8	19.0	18.8	18.3	93.4
	C	18.5	18.5	18.8	18.3	18.0	92.1
	D	18.3	19.0	18.5	18.5	18.0	92.3

注) 製茶品質は、普通審査法(100点満点)による評点で示した。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 夏茶の生産体系を確立する場合の参考資料とする。
- 2 摘採時期の判定に用いた出開度は茶樹の肥培管理による影響が大きい。

VI 今後の研究上の問題点

一番茶の収量・品質を損なわない良質夏茶の生産技術

VII 資料名

61～元年度 福岡県農業総合試験場茶業指導所 試験成績書